

2021（令和3）年6月15日

教育分野に係る助成財団の皆さまへ

< 幹事財団 >

公益財団法人 日産財団

公益財団法人 博報堂教育財団

公益財団法人 パナソニック教育財団

< 事務局 >

公益財団法人 助成財団センター

第3回教育系財団交流会開催のご案内

拝啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、『教育系財団 交流会』は、2006（平成18）年度に「多くの教育現場で助成財団の存在を認識し、その資金の有用性を知らしめるためには、個々の助成財団の努力だけでは限度があり、グループとしての助成財団の存在を強く訴える必要がある。この部会は助成財団相互間の情報交換を密にすることにより、共有する問題点を把握し、グループとして問題を解決していくことにより、個々の財団がより効果的な活動に専念できる環境の造成を指すものである」という理念のもとに発足しました。

当センターの支援事業においては、複数の幹事財団の皆さまが中心に企画し、助成活動や助成を取り巻く社会的環境など、共通のテーマについて情報共有と意見交換をいただいております。会員財団の皆さま自身による最も主体的な活動となっています。

第2回教育系財団交流会は、2019（平成31）年4月15日（月）に横浜みなとみらい・クイーンズフォーラムで開催し、11団体・24名の皆さまが参加されました。助成分野等を同じくする教育系助成財団の皆さまの間で、情報や課題、活動状況の共有とともに、交流を通して時代のニーズを捉えた助成プログラムの構築・実施を目指す方向性を確認いただきました。その後、コロナ禍もあり、2020（令和2）年度まで、その活動を中止していました。

今般、「教育をテーマに活動を行う財団」を巡る状況が大きく変化していることから、幹事財団の皆さまのご発案により、交流会のWEB オンライン開催を検討して参りました。

つきましては、第3回教育系財団交流会は、2021(令和3)年7月13日(火)に、別紙の通り開催いたします。

具体的には、「教育系助成財団グループとしてのアライアンス(広報等)検討」、「コロナ危機の下での教育現場での効果的な助成や国際交流の方法」、「コロナ危機の下で加速していくデジタル通信技術を活用した教育現場の状況や要望の把握」などについて、情報共有と意見交換を行います。

是非、多くの財団の皆さまにご参加いただき、教育系財団相互の情報交換や今後の財団運営等につきまして意見交換が出来れば幸いに存じます。

敬具

※ご参加を希望される方

1. 7月7日(水)までに WEB 申込フォームからお申込みください。

<https://pro.form-mailer.jp/fms/e60e0408228250>

2. お申し込み時には、ご参加される皆さま同士の情報交換のため、アンケートに必ずご記入いただくようお願いいたします。

※お申込み時にお書きいただくのが難しい場合は、別途 apply@jfc.or.jp までお送りください。

3. 参加費のお支払い：7月7日(水)までに下記口座へお振込ください。

・交流会の参加費： 第1部 交流会～第2部 情報交換会

1名につき3,000円 / お一人 もしくは、メールアドレス 毎

・送金先口座：三井住友銀行 新宿西口支店(普通) 5541320

口座名「公益財団法人 助成財団センター」

★ZoomのURLをお送りするまでのキャンセルは、振込手数料を除いた金額をご返金します。

それ以降は払い戻しをいたしませんので、予めご了承ください。

※このご案内は、助成財団センターの会員財団の中から、教育分野に係る事業を行っておられる皆さま、具体的にはセンターが毎年実施している助成団体データベース調査表で、分野データの「教育」にチェックをいただいている会員財団の皆さまに、ご案内させていただいておりますのでご了承ください。

以上

第3回 教育系財団交流会

- 日時：2021(令和3)年7月13日(火)
第1部 交流会 15:00~17:00
第2部 情報交換会 17:00~17:30頃
- 場所：助成財団センター会議室・ZOOMを利用したオンライン会議
- 会費：3,000円 / お一人 もしくは、メールアドレス 毎

I. 交流会 第1部 15:00~17:00 司会進行：公益財団法人 パナソニック教育財団

(1) 幹事財団・開会挨拶

公益財団法人 パナソニック教育財団 常務理事・事務局長 関戸 康友 氏

(2) 幹事財団からの情報提供

① 公益財団法人 日産財団 常務理事 原田 宏昭 氏

- ・教育環境の激変期(GIGA スクール構想・IT教育の環境整備による支援の転換期)
- ・教育系財団の協力構想(教育貢献を軸にした全国展開の広報関係等)

② 公益財団法人 博報堂教育財団 事業局長 成岡 浩章 氏

- ・コロナ禍のオンラインでの取組事例紹介と海外交流事業のトライアル

③ 公益財団法人 パナソニック教育財団 常務理事・事務局長 関戸 康友 氏

- ・今後の学校現場での ICT 教育推進支援の方向性・可能性
- ・先生方への WEB アンケートや、インターネットツールの活用で見えてきたこと

(3) 休憩

(4) 参加財団からの情報提供

「参加財団・参加者一覧」各団体より発表いただきます。1団体5分

「教育現場を支援する各財団の今年の助成方針～コロナ時代に向けた支援を考える」

(5) 助成財団センターからの情報提供 (公財) 助成財団センター 専務理事 田中 皓

ー「公益法人のガバナンスの更なる強化等に関する有識者会議」(最終とりまとめ)

のポイント

ー 助成財団センター・2020年度実施 WEB アンケート

- ・新型コロナウイルスに伴う奨学事業影響調査結果
- ・With コロナの新常態における業務スタイル調査
- ・“コロナが及ぼした影響”と“これからの助成活動”

II. 情報交換会 第2部 17:00~17:30

3グループに分かれ、幹事財団との情報交換をおこなう。

(参加財団毎に ZOOM での意見交換・相談を予定)

『第3回教育系財団 交流会』開催に際し、幹事財団の皆さまからのお言葉

○公益財団法人 日産財団 常務理事 原田 宏昭 様からのお言葉：

今の子供たちが大人になる頃は、AI や IoT が普及した Society 5.0 という超スマート社会になっているそうです。では今、私たちは子供たちに何を教育すればいいのか。この難問に、教育関係者は産官学それぞれの立場から知恵を絞っています。さて、私たち助成財団としても、未来の社会を背負う子供たちのために、まずは財団同士が協力して知恵を出し合って、大きな力にしていきたいと思っています。

○公益財団法人 博報堂教育財団 事業局長 成岡 浩章 様からのお言葉：

弊財団は、「子ども」「ことば」「教育」を活動領域と捉え、現場の先生方、研究者、教職を目指す学生、小中学生などを対象に、「ことばの力」を子どもたちの生きる力へと育む事業を推進しております。また、子どもたちが、ことばの力によって社会と関わり、他者と繋がっていくための「場の形成」についても支援しております。教育に携わる財団の皆様と、「教育」という共通テーマのもと、議論の「場」を形成し、不測な事態の中でのノウハウや活動の共有などの活発な情報交換を行い、それぞれの事業の深化・拡大に貢献することを期待しております。

○公益財団法人 パナソニック教育財団 常務理事・事務局長 関戸康友 様からのお言葉：

- ・学校現場を対象とする各種事業活動を行っている企業・団体にとって、2020年度は、様々な変容の可能性を垣間見た1年だったのではないのでしょうか。
- ・学校現場の変容に対して、サポートする側としてどのような視座・視点で事業を考える必要があるのかなど、情報や課題の共有ができる交流会となれば幸いです。
- ・今回はオンラインでの交流会ですが、その利点を活かして、普段なかなかお目にかかることのできない皆様とも情報交換をさせていただけることに期待をしております。

事前アンケートの内容

記入欄 1：貴財団の「2021 年度助成方針～コロナ時代に向けた教育現場の支援」をご記入ください。

記入欄 2：コロナ禍を乗り越えるために“ご苦労されたこと”や“見直されたこと”について、「助成プログラム面」・「運営面」に分けてご記入ください。

ご意見・ご記入欄 1：「教育系財団として連携していく」ことについて、どのような面での連携を望まれるか等、お考えをお聞かせください。

ご意見・ご記入欄 2：「教育現場からの意見や情報収集」について、これまでに実施されていることや、今後検討すること等、お考えをお聞かせください。

ご意見・ご記入欄 3：交流事業（特に、海外との交流）での「トライアル」や「ネットワークの拡げ方」について、これまでに実施されていることや、今後検討すること等、お考えをお聞かせください。

※ご参加される皆さま同士の情報交換のため、必ずご記入いただくようお願いします。

万が一お申し込み時にお書きいただくことが難しい場合は、別途 apply@jfc.or.jp までお送りください。